ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ
【2025年4月1日放送分・大町頭／大坂　】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- このコーナーも6年目を迎え、いよいよ新シリーズのスタートです。仙台市の中心部、城下町の町割りの基点である「芭蕉の辻」から木村浩二さんのご案内で仙台城の方向＝西へ向かって歩きます。

- 藩政時代、豪商が軒を連ねた大町。特に当時の大町三～五丁目は、米沢～岩出山～仙台と、伊達家の移動に伴い、引っ越しを共にしてきた人々の町＝御譜代町のトップランクに位置づけられ、商業上の様々な特権を与えられていました。
そんな大町を、晩翠通も越えてまっすぐ西へ。
この通り、西公園向かいのヤナセの所から、仙台駅のアエルとPARCOの間の道（名掛丁）まで、ブレずに一直線なのです！

- 西公園は、明治8年に整備された仙台市で最も古いとされる公園です。もともと広瀬川を望む景勝地に神社や芝居小屋などが整備され、賑わいました。コーナー54本目となる今月の辻標は、地下鉄の出口そば。「大町頭／大坂」と刻まれています。かつての大町はここから東へ一丁目が始まったので、そのスタート地点としての「大町頭」というわけです。

- そして「大坂」は、広瀬川の河岸段丘を下り、大橋へと通じる坂の事。昭和13年にかけられた現在の大橋の少し上流には、水が少ない時にかつての橋の柱穴の跡が見られます。木村さんも大興奮の、一級品のコンセキです！
その旧大橋を妄想の上で大手町方面へつなぐと、一直線に進めない事がお分かり頂けると思います。これは城の防衛上、軍勢がまっすぐに進めない「桝形」の耕造をしているからなのです。
次回以降、広瀬川を渡った仙台町の周辺を歴史散歩していきます。　〈文・佐々木淳吾〉